

第6回「第3期桐生・みどり未来創生会議」開催結果概要

- 1 日 時 令和8年2月4日（水） 午後6時から午後7時40分まで
- 2 場 所 みどり市役所笠懸庁舎2階 第2会議室
- 3 出席者 委員 桐生市：荒木市長及び市民委員 8人（2人欠席）
みどり市：須藤市長及び市民委員 8人（2人欠席）
事務局職員 8人（桐生市：4人 みどり市：4人）
事業担当課 7人（桐生市DX推進室：4人 みどり市企画課：3人）
- 4 報道機関 2社（桐生タイムス、上毛新聞 計3人）
- 5 傍聴者 4人
- 6 会議内容
 - (1) 開会
 - (2) 両市長挨拶
 - (3) 経過報告
 - 第5回会議の開催結果について
 - ・事務局より第5回会議の開催結果概要について報告。
 - 子どもの体験の機会の確保について
 - ・事務局より提案に対する実施状況・今後の方針等について報告。
 - (4) 議題
 - 電子地域通貨について
 - ・第5回会議での委員からの意見を踏まえ、両市の事業担当課で調整した結果、みどり市における地域貢献協力金（決済手数料1%）について、考え方に相違があり、現時点で相互利用を実施することは困難な状況であることを報告。
 - 【市民委員からの提案やご意見】
 - ・地域貢献協力金に賛同してくれる店舗だけでも導入を開始してみてもどうか。
 - ・桐生市でも地域貢献協力金と同様の手数料を徴収すればいいのではないか。
 - ・両市ともに同じアプリである「chiica」を利用しているので、両市民が桐生市では「桐ペイ」、みどり市は「みどモス Pay」を利用すればいいのではないか。
 - ・一定期間の間をあげ再度議論し、歩み寄りしてはどうか。 など
 - 【協議結果】
 - ・電子地域通貨の相互利用について、この場では合意できないとの結論に至った。
- 7 両市長の総括
 - 「子どもの体験機会の確保」について、昨年9月に桐生青年会議所と両市によるブラインド型広域避難訓練を実施することができ、多くのご家族に参加していただいた。また、両市で実施している子どもの体験機会の確保に関わる様々な事業をより効果的に情報発信した方が良いといったご意見をいただいたことをきっかけに、両市のホームページでの連携がまもなく実現（令和8年2月9日）する見込みであ

る。その他のご提案いただいた事業についても、両市の子どもたちにとってより良い取り組みになるよう、引き続き進めてまいりたい。

「電子地域通貨」については、結論が出たが、引き続きできる範囲のところから連携を進めてまいりたい。

- 「子どもの体験機会の確保」について、ホームページのイベント周知やMIDORIジュニアアカデミー事業と未来創生塾との連携、青年会議所にご協力いただいたブラインド型広域避難訓練等、実績が上がった。

残念ながら「電子地域通貨」については、相互利用の実現に至らなかった。しかし生活圏・経済圏は一体だと思うので、引き続き両市民の利便性の向上に努めてまいりたい。

以 上